

## 海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	野口 玲 <span style="float: right;">印</span>
所属機関	国立がん研究センター希少がん研究分野
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究に従事した外国の研究機関名</li> <li>・参加した国際学会・会議名</li> </ul>	International Cancer Proteogenome Consortium  19 <sup>th</sup> Annual Meeting of Human Proteome Organization
渡航期間	自 平成 31 年 9 月 12 日 至 平成 31 年 9 月 20 日
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究内容</li> <li>・国際学会・会議内容</li> </ul>	プロテオゲノミクスの最新情報収集と研究発表
<p style="text-align: center;">研究成果 （ 要約 : 800 字 ）</p> <p>オーストラリアのアデレードで開催された International Cancer Proteogenome Consortium (ICPC)およびAnnual Meeting of Human Proteome Organization (HUPO) に参加してまいりました。</p> <p>ICPC は世界 13 か国の国際的ながんのプロテオゲノミクスのコンソーシアムです。日本チームは肉腫の解析担当をしており、日本チームの先生方とともに参加してきました。世界中の国々のメンバーがフラットに話しえる国際会議の雰囲気を感じることができました。何より一番の収穫は台湾、中国、韓国などのアジア諸国で精力的にがんプロテオゲノミクスのプロジェクトが進んでいることを知ることができました。アジア諸国のやっていること、データの解析方法など、ICPC を通して多く学ぶことができ、今後の参考になりました。</p> <p>HUPO はタンパク質研究の国際学会です。今回自分は「 Proteogenomic approach focused on osteosarcomas with different original sites: Reported by ICPC JAPAN team」という演題をポスター発表しました。骨肉腫の発生母地がことなることで、治療法や予後が異なることをプロテオゲノミクスの視点で解析した研究について報告しました。会場で各諸国の方とディスカッションができ、今後の課題を得ることができました。これからも精進し、来年も研究成果を出せるように頑張りたいと思います。</p> <p>今回、このような貴重な体験ができましたのも、貴財団からの助成をいただいたおかげであります。ここに心から感謝の気持ちを込めて、御礼申し上げます。</p>	

